

てんさい新品種候補	「HT 28」の概要	道立北見農試、十勝農試、中央農試、上川農試、北農研センター 北海道てん菜協会(北海道糖業株、日本甜菜製糖株、ホクレン)
-----------	------------	--

1. 特性一覧表

系統名	HT 28	来歴	「HT 28」は、スウェーデンのシンジェンタ種子会社が育成した二倍体単胚の一代雑種である。平成16年に北海道糖業株式会社が輸入し、同年「HMR04-06」の名でそう根病抵抗性予備試験に供試。平成17年より各種試験を行った。
-----	-------	----	---

特性	長所	1) そう根病抵抗性が“強”である。 2) 「モーノ」に比べて根重、根中糖分、糖量が優れる。 3) 「クローナ」に比べて根重、糖量が多い。	短所	4) 褐斑病抵抗性が「クローナ」より強い“やや強”である。 1) 「クローナ」に比べ根中糖分がやや低い。
----	----	---	----	---

普及見込面積	平成20年度5,000ha 平成21年度以降8,000ha以上
--------	---------------------------------

系統・品種名 形質	健全圃場				そう根病発病圃場	
	HT 28	モノホマレ (標準品種)	クローナ (対照品種)	モーノ (対照品種)	HT 28	モーノ (対照品種)
倍数性	二倍体	二倍体	三倍体	二倍体		
葉姿	やや直立	直立	やや開平	やや直立		
葉長	やや長	長	やや長	中		
葉数	中	やや多	中	やや多		
葉形	やや皮針	皮針	楕円	やや皮針		
クワの大小	小	小	やや小	小		
根形	円錐	円錐	やや短円錐	やや短円錐		
分岐根	少	少	少	少		
露肩	やや多	中	中	中		
根重(t/10a)	8.30(114)	7.27(100)	7.50(103)	7.78(107)	5.78(105)	5.51(100)
根中糖分(%)	16.55(103)	16.11(100)	16.90(105)	16.02(99)	14.66(102)	14.39(100)
糖量(kg/10a)	1,370(117)	1,168(100)	1,262(108)	1,243(106)	904(108)	836(100)
修正糖量(kg/10a)	1,200(120)	998(100)	1,101(110)	1,049(105)	813(112)	728(100)
アミノ態窒素(meq/100g)	2.16(96)	2.25(100)	2.17(96)	2.73(121)	1.73(86)	2.02(100)
カリウム(meq/100g)	4.02(86)	4.65(100)	4.36(94)	4.99(107)	2.44(76)	3.22(100)
ナトリウム(meq/100g)	0.47(62)	0.76(100)	0.58(76)	0.63(83)	0.82(84)	0.98(100)
不純物価(%)	4.51(86)	5.27(100)	4.68(89)	5.86(111)	3.83(81)	4.71(100)

特性検定試験	HT 28	モノホマレ	クローナ	モーノ
褐斑病抵抗性	やや強	やや弱(やや強)	弱	やや強
根腐病抵抗性	やや弱	やや弱(弱)	弱	弱
抽苔耐性	強	強	強	強
耐湿性	(中)	やや弱	中	やや弱
そう根病抵抗性	強	やや弱	—	強
黒根病抵抗性	中	中	中	(やや弱)

注1) 特性検定は担当農試の成績で、褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の()内は品種登録時の評価。
 2) 形態的特性は北見・十勝農試の成績。健全圃場の成績は十勝、北見、中央、上川、北農研、てん菜協会(3カ所)の計8カ所平均で、試験年次は3カ年(H17~19)。但し、上川・中央農試は平成17年のみで、日甜の平成17年も除く。()内は「モノホマレ」に対する百分比。そう根病発病圃場の成績は北見農試そう根病抵抗性検定圃場の3カ年の平均値(そう根病発病程度はH17:多、H18:少、H19:甚)で、()内は「モーノ」に対する百分比。
 3) 「クローナ」はそう根病抵抗性を持たないため、特性検定試験には供試していない。
 4) 「HT 28」の耐湿性(平成18年)、「モーノ」の黒根病抵抗性(平成19年)は単年度試験に基づく評価。

2. 「HT 28」の特記すべき特徴

そう根病抵抗性が「モリーノ」並の“強”であり、「モリーノ」と比較して根重、根中糖分、糖量が優り、不純物価が低く品質が優る。「クローナ」と比較して根中糖分はやや劣るものの、根重、糖量が優る。また、褐斑病抵抗性が「モリーノ」並の“やや強”であり、「クローナ」の“弱”より優る。

3. 優良品種に採用しようとする理由

てんさいの重要病害である、テンサイそう根病は化学的防除が困難なため、発病圃場では抵抗性品種の作付けが不可欠であり、そう根病発生地域の拡大とともに抵抗性品種の重要性はさらに高まっている（平成19年現在、抵抗性品種の作付けシェアは24.6%）。抵抗性品種の「モリーノ」は平成11年に優良品種に認定され、最大で約4800ha（平成18年）作付けされたが、根中糖分が“かなり低”に分類されることもあり、根重、根中糖分共に優れた抵抗性品種が切望されている。

一方、「クローナ」を含む一般品種の大半は、テンサイ褐斑病に対する抵抗性が“弱”であるため、適期に薬剤防除が行えない場合、減収被害が懸念される。このため、収量性に優れるだけでなく、褐斑病抵抗性にも優れた品種が必要とされている。

そう根病抵抗性を有する「HT 28」は、「モリーノ」と比較して根重、根中糖分、糖量が優り、不純物価が低く品質が優る。また、一般品種の「クローナ」と比較して、根中糖分はやや劣るものの根重、糖量が優る。さらに、褐斑病に対しても抵抗性が“やや強”であり、同病に対する被害軽減が期待できる。

以上のことから、「HT 28」を「モリーノ」に置き換えるとともに、「クローナ」を含む一般品種の一部に替えて北海道一円に普及することにより、てんさいの安定生産に寄与できる。

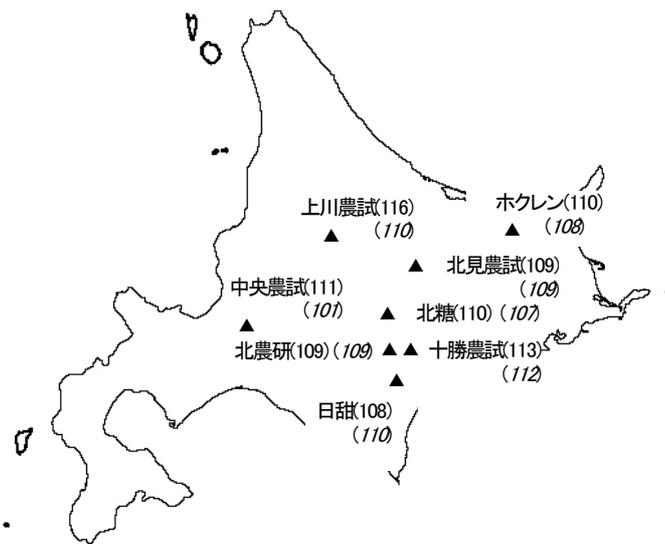
4. 栽培適地

北海道一円。

図1. 「HT 28」の糖量

(対「モリーノ」、「クローナ」百分比表示) (斜字体が「クローナ」対比)

▲：輸入品種検定試験、品種連絡試験
3カ年平均成績(平成17～19年)



5. 栽培上の注意

- 1) 多湿圃場で黒根病が多発した試験例があるため、適切な排水対策に努める。